

第2章 兵庫県における現状と課題

1 飲酒者と検診の状況

【現状】

(1) 飲酒者の状況

① 「リスク飲酒量」^{※1}を飲酒している者（「リスク飲酒者」）の割合

本県における「リスク飲酒者」の割合は、男性 14.5%、女性 10.3%で、男女とも前回調査よりも高い数値となっています。また、女性は全国の割合よりも1.2ポイント高く、前回調査との比較では1.8倍となっています。

※1 「リスク飲酒量」（生活習慣病のリスクを高める飲酒量）：1日あたりの純アルコール摂取量が男性 40g、女性 20g 以上（純アルコール 20g はビール 500ml 相当）

○ 「リスク飲酒者」の割合

	平成 23 年度	平成 28 年度	【参考】全国 (平成 28 年度)
男性	12.4%	14.5%	14.6%
女性	6.0%	10.3%	9.1%

出典：兵庫県健康づくり実態調査、国民健康・栄養調査報告

② 「リスク飲酒者」の割合が高い年代

本県では、男性では中高年層、女性では若～中年層で「リスク飲酒者」の割合が高くなっています。

○ 「リスク飲酒者」の割合（性別・年代別の内訳）

（男 性）

	H23	H28
20代	3.4%	5.5%
30代	10.0%	12.0%
40代	17.6%	20.7%
50代	16.1%	20.5%
60代	17.0%	18.2%
70代	8.6%	7.6%
80歳以上	4.9%	3.8%

（女 性）

	H23	H28
20代	2.9%	15.1%
30代	8.1%	12.7%
40代	10.1%	21.4%
50代	9.8%	11.3%
60代	3.8%	6.0%
70代	2.1%	2.4%
80歳以上	0.0%	3.4%

出典：兵庫県健康づくり実態調査

③ 「リスク飲酒量」を知っている者の割合

自らの性における「リスク飲酒量」を正しく知っている人の割合は、男性で 22.2%、女性で 13.4%となっています。

また、調査への回答では「わからない」や、「リスク飲酒量」以上の量を選択した人の割合が多くなっており、アルコールが健康に与える影響について正しい知識を知っている人が少ない状況です。

○「リスク飲酒量」に関する認識

※分量は清酒換算（清酒における「リスク飲酒量」は、男性は2合以上、女性は1合以上）

(男性)※男性のリスク飲酒量に関する認識

1合(180ml)以上	6.8%
2合(360ml)以上	22.2%
3合(540ml)以上	28.7%
4合(720ml)以上	7.4%
5合(900ml)以上	3.4%
わからない	24.3%
無回答	7.3%

(女性)※女性のリスク飲酒量に関する認識

1合(180ml)以上	13.4%
2合(360ml)以上	22.3%
3合(540ml)以上	14.6%
4合(720ml)以上	3.3%
5合(900ml)以上	1.5%
わからない	37.2%
無回答	7.7%

出典：兵庫県健康づくり実態調査

◎ 多量飲酒者^{※2}の割合

前回調査比で男女とも増加しており、男性が約2倍、女性が約9倍となっています。

※2 多量飲酒者：1日平均純アルコール60gを超えて飲む者

○多量飲酒者の割合

	平成23年度	平成28年度
男性	2.3%	5.3%
女性	0.3%	2.6%

出典：兵庫県健康づくり実態調査

[性別・年代別の内訳]

(男性)

	H23	H28
20代	0.7%	5.1%
30代	4.8%	7.1%
40代	1.2%	10.4%
50代	2.8%	7.0%
60代	2.8%	4.7%
70代	0.9%	1.5%
80歳以上	3.3%	0.0%

(女性)

	H23	H28
20代	0.5%	5.7%
30代	0.0%	2.0%
40代	0.2%	7.9%
50代	1.6%	2.5%
60代	0.0%	0.0%
70代	0.0%	0.9%
80歳以上	0.0%	0.0%

④ 飲酒の頻度

飲酒の頻度が「毎日」の人は、男性が30.1%、女性が8.5%と、男性の割合が高くなっています。年齢別にみると、男性では50～70代、女性では30～50代で割合が高くなっています。

前回調査との比較では、全体的には横ばいの傾向ですが、女性の飲酒が増加傾向にあります。

○飲酒の頻度

		毎日	週5-6日	週3-4日	週1-2日	月1-3日	やめた	ほとんど飲まない(飲めない)	無回答
H23	男性	34.2%	7.7%	7.8%	8.7%	8.9%	4.4%	27.5%	0.7%
	女性	6.5%	3.6%	4.8%	7.9%	9.2%	1.7%	64.0%	2.3%
H28	男性	30.1%	8.9%	6.0%	11.4%	9.4%	4.0%	27.7%	2.5%
	女性	8.5%	4.0%	3.7%	8.0%	10.2%	1.5%	60.2%	4.0%

(男性)

		毎日	週5-6日	週3-4日	週1-2日	月1-3日	やめた	ほとんど飲まない(飲めない)	無回答
H23	20代	1.7%	8.3%	7.0%	15.2%	22.0%	0.0%	45.8%	0.0%
	30代	20.3%	7.5%	12.5%	8.3%	20.5%	3.4%	27.4%	0.0%
	40代	33.2%	4.3%	8.9%	18.9%	5.3%	2.0%	27.3%	0.0%
	50代	38.2%	10.7%	8.5%	10.8%	3.8%	4.0%	22.7%	1.3%
	60代	45.2%	10.3%	5.2%	6.0%	4.0%	7.2%	22.1%	0.0%
	70代	38.2%	5.8%	7.6%	2.8%	6.9%	5.0%	31.3%	2.1%
	80歳以上	45.5%	4.7%	4.9%	0.7%	11.8%	6.9%	23.6%	1.8%
H28	20代	2.3%	1.9%	0.3%	23.9%	33.3%	0.0%	34.8%	3.5%
	30代	20.8%	6.1%	10.1%	11.1%	17.6%	1.0%	30.8%	2.5%
	40代	26.8%	10.0%	12.0%	11.5%	11.2%	0.2%	27.1%	1.2%
	50代	31.4%	13.4%	5.7%	18.4%	7.2%	6.4%	17.4%	0.1%
	60代	40.0%	9.2%	5.8%	7.8%	3.8%	3.5%	26.6%	3.4%
	70代	35.7%	7.7%	2.8%	8.9%	5.3%	8.0%	27.7%	3.9%
	80歳以上	29.9%	6.0%	0.0%	4.1%	5.0%	7.9%	43.2%	3.8%

(女性)

		毎日	週5-6日	週3-4日	週1-2日	月1-3日	やめた	ほとんど飲まない(飲めない)	無回答
H23	20代	0.3%	0.5%	7.0%	12.7%	27.9%	2.4%	49.3%	0.0%
	30代	8.9%	2.4%	7.5%	13.4%	7.1%	5.5%	55.1%	0.0%
	40代	14.0%	5.4%	4.2%	10.7%	10.4%	2.6%	52.1%	0.7%
	50代	9.8%	5.1%	6.6%	7.8%	12.9%	0.0%	57.8%	0.0%
	60代	5.0%	3.9%	2.7%	3.5%	8.2%	0.1%	75.2%	1.5%
	70代	2.3%	4.2%	2.5%	3.3%	2.3%	1.1%	76.5%	7.7%
	80歳以上	0.2%	1.5%	4.4%	7.1%	3.6%	0.9%	76.2%	6.0%
H28	20代	2.7%	6.6%	3.4%	11.6%	35.4%	3.4%	36.8%	0.0%
	30代	7.0%	3.4%	3.5%	8.2%	12.0%	2.9%	61.4%	1.6%
	40代	15.6%	8.5%	6.6%	4.6%	9.5%	1.6%	52.8%	0.9%
	50代	13.1%	4.0%	1.9%	16.5%	11.7%	2.4%	49.0%	1.5%
	60代	6.7%	3.5%	2.7%	6.5%	5.8%	0.6%	71.0%	3.4%
	70代	4.5%	1.4%	2.2%	4.3%	6.7%	0.0%	69.9%	11.0%
	80歳以上	4.8%	0.3%	6.1%	8.0%	3.0%	0.7%	66.7%	10.2%

出典：兵庫県健康づくり実態調査

⑤ 未成年者の飲酒状況、アルコールの健康への影響の知識

未成年者（中学3年生、高校3年生）で年1回以上飲酒した者の割合は、全国よりも低い数値となっています。

○未成年者（中学3年生、高校3年生）の飲酒割合

	平成28年度	【参考】全国（平成26年度）
中学3年生	4.7%	12.3%
高校3年生	14.3%	20.0%

出典：中学生・高校生の健康づくり実態調査、国民健康・栄養調査報告

飲酒の身体への影響については、65.6%が「害があると思う」と回答していますが、一方で「多少は害があるだろうがたいしたことはないと思う」が16.0%あります。

○飲酒の身体への影響に関する認識

※回答者：県内に居住する中学1年生、中学3年生、高校3年生相当の男女

（問い） お酒を飲むと身体に影響があると思いますか。	
（回答）	
害があると思う	65.6%
体に良くも悪くもないと思う	10.7%
多少は害があるだろうがたいしたことはないと思う	16.0%
かえって健康によいと思う	1.6%
わからない	5.6%
無回答	0.4%

出典：中学生・高校生の健康づくり実態調査（H28）

⑥ 妊婦の飲酒の割合

本県の妊婦の飲酒の割合は、全国よりも低い数値となっていますが、ゼロではありません。

○妊婦の飲酒割合

平成27年度	平成28年度	平成29年度	【参考】全国（平成25年度）
1.3%	2.6%	1.0%	4.3%

出典：母子保健に関する実施状況等調査、健やか親子21（第2次）

(2) 特定健診等の状況

⑧ 特定健診^{※3}の受診率

本県の受診率は年々上昇していますが、全国平均よりも低い状況となっています。

※3 特定健診：40歳から74歳までの人を対象にした、メタボリックシンドロームに着目した健診。健診の問診項目に、生活習慣病の発症リスクのひとつであるアルコール摂取量に関する項目が含まれている。

○特定健診の受診率

平成 28 年度	【参考】全国（平成 28 年度）
47.9%	51.4%

④ 特定保健指導^{※4}の実施率

平成 28 年度の実施率は、全国平均より約 3 ポイント低い状況にあります。

※4 特定保健指導：特定健診の受診者に対する生活習慣の改善のための指導。健診の結果、アルコール摂取量が多い者に対しては、アルコール使用障害のスクリーニングの実施を推奨されている。

○特定保健指導の受診率

平成 28 年度	【参考】全国（平成 28 年度）
16.1%	18.8%

【課題】

○アルコールが健康に及ぼす影響、適正飲酒等の啓発推進

- ・「リスク飲酒者」及び「多量飲酒者」の割合は前回調査から増加しており、また、「リスク飲酒量」を知っている者の割合は、男性で 2 割程度、女性で 1 割程度であることから、アルコールが健康に及ぼす影響、適正飲酒等に関する啓発、情報提供をさらに推進していく必要があります。

○性別の飲酒状況に応じた対応の必要性

- （男性）「リスク飲酒者」の割合は 40 代から 60 代、「毎日飲酒している者の割合」は 50 代から 70 代で高くなっており、中高年～高齢者層のアルコール健康障害に配慮する必要があります。
- （女性）「リスク飲酒者」の割合は 20 代から 40 代、「毎日飲酒している者の割合」は 30 代から 50 代で高くなっており、若年～中年層のアルコール健康障害に配慮する必要があります。

○特定健診、特定保健指導の実施率の向上等

- ・地域、職域における特定健診、特定保健指導の実施率を高める必要があります。また、特定保健指導等において、アルコール使用障害のスクリーニングを進める必要があります。

2 アルコール健康障害にかかる保健・医療・福祉の状況

【現状】

① アルコール依存症者の推計数

平成 24 年の厚生労働省調査に基づく、本県における「アルコール依存症の経験者」の推計数は約 4.6 万人です。

○アルコール依存症者の推計数

全国			兵庫県		
男性	女性	計	男性	女性	計
95 万人	14 万人	109 万人	4.0 万人	0.6 万人	4.6 万人

出典：WHO世界戦略を踏まえたアルコールの有害使用対策に関する総合的研究

※本県分は、全国値に 20 歳以上男女の人口割合（平成 24 年 10 月時点）を乗じて算出

①、㉔ アルコール依存症の精神病床での入院患者数、外来患者数

入院及び外来の患者数は、人口 1 万人あたりの比較では全国値よりも少ないが、患者数自体は増加しています。

○アルコール依存症の精神病床での入院、外来患者数（人口 1 万人対）

	平成 26 年度	平成 28 年度	【参考】全国 (平成 28 年度)
① 入院 患者数	1.34 人 (患者数 742 人)	1.57 人 (患者数 866 人)	2.02 人 (患者数 25,606 人)
㉔ 外来 患者数	6.42 人 (患者数 3,555 人)	6.69 人 (患者数 3,693 人)	7.53 人 (患者数 95,579 人)

出典：精神保健福祉資料（国立精神・神経医療研究センター調査）、総務省人口推計（人口 1 万対の算出に使用）

①、㉔ アルコール依存症を入院診療している精神病床を持つ病院数、外来診療している医療機関数

本県のアルコール依存症を入院診療している病院数は、人口 1 万人あたり 0.07 か所で、全国値の 0.12 か所よりも少ない状況です。

また、本県のアルコール依存症を外来診療している医療機関数は、人口 1 万人あたり 0.48 か所で、全国値の 0.43 か所よりも多くなっています。

○アルコール依存症の診療を行っている病院数、医療機関数（人口 1 万人対）

	平成 28 年度	【参考】全国 (平成 28 年度)
① アルコール依存症を入院診療している病院数	0.07 か所 (実数 41 か所)	0.12 か所 (実数 1,470 か所)
㉔ アルコール依存症を外来診療している医療機関数	0.48 か所 (実数 263 か所)	0.43 か所 (実数 5,429 か所)

出典：精神保健福祉資料（国立精神・神経医療研究センター調査）、総務省人口推計（人口 1 万対の算出に使用）

㉔ 保健所、精神保健福祉センターでのアルコール問題に関する相談件数

本県での相談件数は 1,688 件で、全国の相談件数に占める割合は人口比

(H28:4.3%) とほぼ同じ割合 (4.3%) となっています。

○アルコール問題に関する相談件数 (保健所、精神保健福祉センター)

平成 28 年度	【参考】全国 (平成 28 年度)
1,688 件	39,298 件

出典：地域保健・健康増進事業報告、衛生行政報告例

◎ アルコール依存症に関連する自助グループ数

アルコール依存症からの回復支援においては、実際に当事者やその家族として回復への道のりを歩んできた人たちの集まりである、断酒会やAA、アラノン等の自助グループが重要な役割を果たしており、現在県内では、断酒会等 46 団体が活動しています。

【AA (アルコホーリクス・アノニマス)】、【アラノン (Al-Anon)】

AA、アラノン共に、アメリカで始まり、日本でも全国各地で活動を行っているアルコール依存症の自助グループ。AAは当事者、アラノンは当事者の家族が構成メンバーの主体となっている。

○県内のアルコール依存症に関連する自助グループ数

グループの区分	団体数	地域別の内訳									
		神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路
断酒会	18	3	4	4	1	1	1	2	1	0	1
AA	26	7	9	5	2	0	1	0	1	0	1
アラノン	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

※断酒会の団体数は「全日本断酒連盟」への加盟団体数 (「兵庫県断酒連合会」を含む) を記載

※AA、アラノンの団体数は、それぞれのホームページ (平成 31 年 1 月末現在) に基づいて記載

【課題】

○アルコール依存症への医療体制の充実

- ・アルコール依存症と判断されうる者は県内にも相当数存在することが想定されますが、本県のアルコール依存症の入院患者数、外来患者数は人口割合では全国よりも低く、医療につながっている者が少ないと推測されます。

加えて、本県のアルコール依存症を入院診療している精神病床を持つ病院数は、人口割合では全国より少ないことから、医療体制の充実を図る必要があります。

○自助グループとのより一層の連携

- ・アルコール依存症の当事者とその家族に対する支援にあたっては、行政と自助グループが連携して取り組むことが重要です。また、自助グループの活動に対して必要な支援を行っていくことも求められます。

3 アルコールによる社会的、二次的影響

【現状】

㊫ 飲酒補導（未成年者）の人数

本県では年間 500 人弱～600 人弱程度で推移しており、人口 10 万人あたりの比較（H29）では、全国値とほぼ類似した値となっています。

○未成年の飲酒による補導人数

	H25	H26	H27	H28	H29	全国値(H29)
飲酒補導（人）	581	538	467	491	573	12,822
人口 10 万人あたり（人）					10.4	10.1

出典：県警察本部統計、総務省人口推計（人口 10 万対の算出に使用）

㊬ 飲酒運転事故の発生件数

本県では年間 170～190 件程度で推移しており、人口 10 万人あたりの比較（H29）では、全国値よりもやや高い値となっています。

○飲酒運転事故の状況（1 当原付以上運転者）

	H25	H26	H27	H28	H29	全国値(H29)
飲酒運転事故（件）	191	183	182	169	176	3,582
人口 10 万人あたり（件）					3.2	2.8

出典：県警察本部資料、総務省人口推計（人口 10 万対の算出に使用）

㊭ 児童虐待の相談件数

原因の 1 つとしてアルコール依存が関係している児童虐待の相談件数が年々増加しています。

○児童虐待相談の受付件数

	H25	H26	H27	H28	H29	全国値(H29)
児童虐待の相談件数（件）	2,343	2,657	3,281	4,104	5,221	133,778
人口 10 万人あたり（件）					95	106

出典：県記者発表資料、総務省人口推計（人口 10 万対の算出に使用）

※県数値は相談受付件数、全国数値は相談対応件数

※件数は相談の総数

㊮ 自殺者数（人口 10 万人あたりの自殺者数）

本県の自殺者数は減少が続いていましたが、29 年は増加に転じています。

○自殺者数

	H25	H26	H27	H28	H29	全国値(H29)
自殺者数（人）	1,180	1,147	1,037	942	976	21,321
自殺死亡率（人）					17.7	16.8

出典：自殺者数は警察統計、自殺死亡率算定の人口は総務省「人口推計」（平成 28 年 10 月 1 日現在）を使用

【課題】

○未成年者への啓発推進

- ・未成年者については、非行件数が増加する中学生に達するまでに、様々な非行の問題と身体への害悪等の注意喚起をすることが効果的です。

○依存症疑いの飲酒運転者への受診支援等

- ・飲酒運転をした者にアルコール依存の疑いがある場合には、専門医療機関での受診や相談窓口での相談を促しているが、受診や相談に確実につなげることが重要です。

○虐待等の背景にあるアルコール問題への適切な対応

- ・虐待や自殺未遂等の背景にアルコール関連問題が存在する場合には、適切に専門相談から治療、回復支援につなげることが必要です。